

キーノートレクチャー | 専門領域別 | 体育哲学

体育哲学／浅田学術奨励賞記念講演／レガシーとしてのオリンピック・パラリンピック教育の可能性

司会：深澤 浩洋（筑波大学）

2023年9月1日(金) 10:10～11:10 RY203 (良心館2階 R Y 2 0 3 番教室)

[00哲-レクチャー-1] レガシーとしてのオリンピック・パラリンピック教育の可能性

*岡田 悠佑^{1,2} (1. 明治学院大学、2. 早稲田大学)

＜演者略歴＞

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了（博士（スポーツ科学））。現在、明治学院大学心理学部教育発達学科助教。前職の早稲田大学スポーツ科学学院研究助手のときに、スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」に従事し、オリンピック・パラリンピック教育の普及に携わる。

2021年に東京で開催されたオリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京大会）に向けて、日本全国で普及が推進されたオリンピック・パラリンピック教育（以下、オリ・パラ教育）のレガシーとしての可能性について発表する。

そもそもオリ・パラ教育は、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び（内容）」と「オリンピック・パラリンピックを通じた学び（教材）」の2つの学びで構成されている。そして東京大会では、全国の各種学校で効果的かつ継続的なオリ・パラ教育を実現するために、様々な教育活動と関連付けた実践の実現が目指された。しかし先行研究では、その実現可能性に対する批判的な見解が度々示されてきた。さらに、東京大会後のオリ・パラ教育の実態については、まだ十分な検討が行われていない。

そこで本発表では、東京大会に向けたオリ・パラ教育の実態やその普及過程について、本授賞論文を中心に最新の知見を提供する。次に、東京大会後のオリ・パラ教育の現状についての調査結果を示す。そして最後に、これらの知見を踏まえて、レガシーとしてのオリ・パラ教育の可能性及び課題について示す。